

2022年10月度の観察記録

カテゴリ : 2022年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2022-10-9

2022年10月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

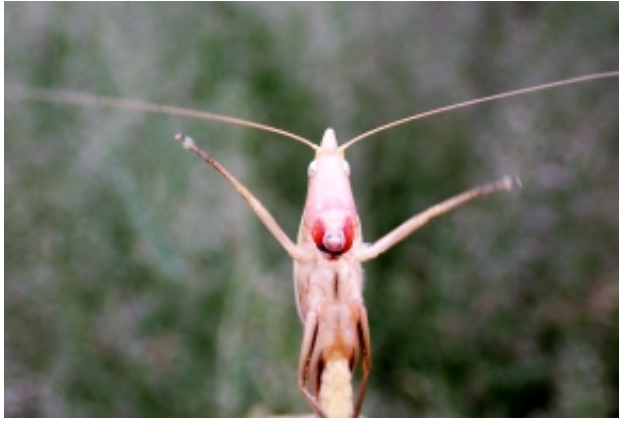
2022年 10月 9日(日) 9:30~12:15 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人?18名, 子ども?3名 天気: 曇り この1週間ほどで気温がぐんと下がり、急に秋らしい気候になりました。3連休の中日だからいつもより少なめの参加者数でしたが、その分みんなで見たり匂いを嗅いだり音を聞いたりする体験を共有することができました。

里山の家での持ち込み観察項目: カリンの実, カイコ, シンジュキノカワガ?

里山の家を出てすぐ東のクスノキの幹を観察していた参加者がハエトリグモを2頭見つけました。シラヒゲハエトリとのことで、写真を拡大してみると全身毛むくじゃらでした。カエル池の周辺ではカゼクサをはじめアキノエノコログサ、チカラシバなどたくさんのイネ科の植物が穂をつけていました。葉の形状の特徴を手触りで確認していると、クビキリギスが現れました。口が赤いのが特徴で、口紅をつけていると表現する参加者もいました。クビキリギスは成虫で越冬します。





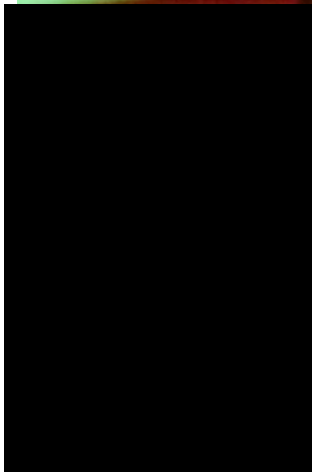
シラヒゲハエトリ カゼクサの観察 クビキリギス

、その中にオオオナモミが一株残されていました。オオオナモミは北アメリカ原産の外来種で、10年ほど前にはくらしの森で普通に見ることができましたが、今は数が少なくなりました。そばのタラヨウは別名「ハガキの木」と言われます。硬い小枝で葉の裏に字を書くとかくっきりと残りました

大坂池の周囲はきれいに草刈りがされていて



オオオナモミ 字を書いたタラヨウの葉 ミズヒキの花を観察すると、めしべのまわりにおしべが5本ありました。花びらに見えるのは萼だそうです。花が終わったあとにはめしべが伸びてその先はカギ状に曲がってひっつきむしになるとのことでした。

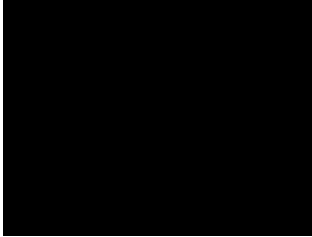


ミズヒキの花 畑に移動して観察をイモキバガの幼虫がクウシンサイの葉を巻いて綴って巣にしていました。クウシンサイはサツマイモと同じヒルガオ科の植物です。イモキバガはサツマイモにもついていました。

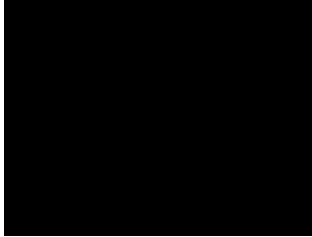




イモキバガの幼虫 クウシンサイにはほかにもガの幼虫がついていましたナカグロクチバとシタバの幼虫でした。畑ではほかにもナカグロクチバの幼虫も見つかりました。この2種は夏の灯火採集で採れるおなじみのガです。



ナカジロシタバの幼虫 ナカグロクチバの幼虫 畑の脇でカエルが飛び跳ねるのを子どもたちが追いかけていました。カエル好きの青年が捕まえてくれたのを見るとヌマガエルでした。ラッカセイは花が終わって子房が長く下に向かって伸びているものを観察することができました。「落花生」とは実のできる様子をよく言い表していると感心する声が聞かれました。



ヌマガエル ラッカセイ

畑を上段ま**カヌメウリ**の実がいくつも色づいているのが見られました。そのそばでは**スズメウリ**も実っていて、2種を並べて観察しました。

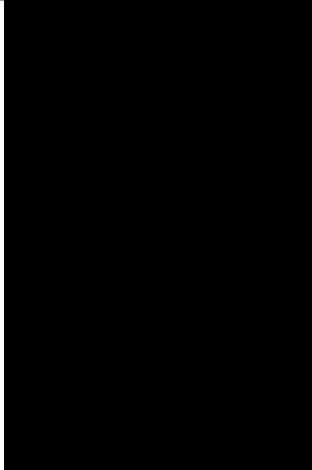




カラスウリ(右)とスズメウリ 上段の畑ではアオイ科の植物が3種並んで栽培されていました。オクラは花がほとんど終わり、実がわずかに残っていました。ワタは実がいくつもはじけて白い綿毛がボール状についていました。ローゼルの花は淡いピンク色で、数えきれないほどの実がなっていました。この実を食べてみた人もいました。



ワタの実 ローゼルの花 **ぬちカクヤウ**が見られました。畑では繁殖力の強い雑草として嫌われ者とのことでしたが、小さな実をつけた姿は多くの参加者の目に可愛らしく映ったようです。

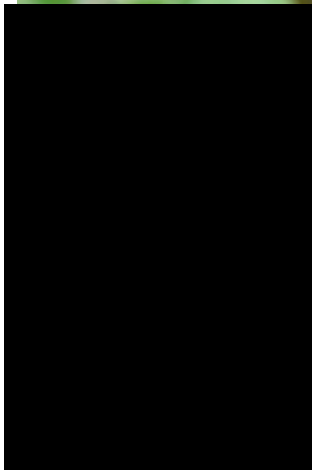


コミカンソウ 参加者の青年が畑の周辺の側溝の蓋を上げると、たくさんの生きものが見つかりました。中でもセアカヒラタゴミムシは数頭捕獲されて、ケースに入れられました。ケースの蓋を開けると強烈な酸っぱい臭気を感じました。この臭いの正体の主成分は蟻酸だそうです。畑を離れる頃にニホンアカガエルが姿を現しました。





セアカヒラタゴミムシ ニホンアカガエル つどいの丘に移動してヤマノイモを調べていた参加者が、これを食草とするキイロスズメの幼虫がついているのを見つけました。丸々と太った大きな幼虫でした。刺激を与えると顔を引っ込めて静止する様子が紹介されました。



キイロスズメの幼虫 里の道を通って戻ることにはまぐさバネウケが見つかりました。袋状になった頭の部分を押しと胞子が煙のように放出される様子が観察できました。またススキの花が満開で、黄色いおしべが並んでぶら下がり風に揺れていました。シンジュの幹をよく見ると、シンジュキノカワガの空の繭がいくつも見つかりました。そして少し先のシンジュの葉には様々なサイズの幼虫もついていました。南方系のがで、名古屋では越冬できないと言われてきていますが今年はどうでしょうか。

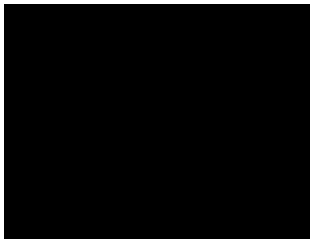




クチベニタケ ススキの花 シンジュキノカワガの幼虫
えて見せてくれました。鳴き声の大きさでもその数でも外来種のアオマツムシに圧倒されている印
象のマツムシですが、姿を確認出来て良かったと言う参加者もいました。

昆虫好きの青年のメスを捕ら





マツムシ **アメ母菊センダングサ**の黄色い花がたくさん咲いていました。**コセンダングサ**もすぐ隣に咲いていたので並べて写真に撮りました。どちらも外来種ですが、花の見分け方は周囲を取り囲む萼のように見える葉状の部分（苞）が大きく目立つのがアメリカセンダングサです。最後に**ヒメジュウジナガカメムシ**の大集団を観察しました。よく見ると成虫と幼虫が混在していて、このように集まるのは集合フェロモンの働きによるものとのことでした。



アメリカセンダングサ（右）とコセンダングサ ヒメジュウジナガカメムシ 気温が下がって、飛んでいるチョウやトンボの姿はほとんど見られなくなってきました。このことについては「チョウやトンボがいなくなった」と表現しがちですが、実際には昆虫たちは冬越しの準備に入り、姿を変えて森のどこかで暮らしています。これからの季節はそんな姿に出会うのも楽しみの一つになりそうです。

平和公園での観察項目：ウンモンズズメのフン, ケヤキ, ハラビロカマキリの卵鞘, モリチャバネゴ

キブリ, シラヒゲハエトリ, ツチイナゴ, ツバメシジミ, マユタテアカネ, ニクバエ, キンバエ, イエバエ, カゼクサ, ヘリチャハゴロモ, クビキリギス, コバネイナゴ, ススキの葉, マサキの実, イセノナミマイマイ, オオオナモミ, ヒガンバナ, キタキチョウ, アオバハゴロモ, タラヨウ, ジョロウグモ, モチツツジの忘れ花, オオスズメバチ, トビズムカデ(), アベマキのドングリ, ミズヒキ, ハラオカメコオロギ, クウシンサイ, サツマイモ, ラッカセイ, イモキバガの幼虫, ナカグロクチバの幼虫, ナカジロシタバの幼虫, ヌマガエル, ワタの実, ローゼル, オクラ, カラスウリ, スズメウリ, ヤマトシジミ, ムネアカハラビロカマキリの卵鞘, エンマコオロギ, 側溝の生きもの(ミミズ, ムカデ, ゴミムシ, ダンゴムシ, ワラジムシ, フナムシ), センチコガネ, キタキチョウ, ヒメジャノメ, ニホンアカガエル, ジュズダマ, ムクノキ, ヤマノイモ, キイロスズメの幼虫, クチベニタケ, ススキの花, ヨモギの花, ツルマメ, ヌカキビ, アキノエノコログサ, アキノノゲシ, エビスグサ, ベニバナボロギク, シンジュキノカワガの幼虫, カナムグラ, イシミカワ, コセンダングサ, アメリカセンダングサ, マツムシ(), ツクツクボウシの抜け殻, ウラナミシジミ, ヒメジュウジナガカメムシ, キバラゴマダラヒトリ, モズの声